

表 第11回ロシア極東等農林水産業プラットフォーム会合で講演したロシア企業一覧

企業・団体名	地域	分野	事業概要、関心事項など
沿海地方水産協会	沿海地方	水産	沿海地方の水産業発展を目的として1994年に設立。水産物の漁獲、加工、販売などに携わる30社以上が加盟。マルティノフ理事長は地域の水産関連企業と幅広いネットワークを持ち、北海道庁勤務経験もある親日家。日本海における水産資源の保存と活用において日露間の大きな協力可能性を見いだしており、スルメイカやサンマ、イワシの漁獲活動に関心。
RPKセベルナヤ/ホロクス	沿海地方	水産	2015年設立の、漁獲や加工、輸送、販売を行う水産会社。日本へも水産品を輸出。主な取り扱い品目は、サケやマス、タラ、カレイ、タコ、イカ、カニ、エビ、貝類。水産業における投資事業の実現に向けた、長期的・戦略的なパートナー探しを希望。
ウラジオストク海洋漁業港	沿海地方	港湾運営	スケソウダラやニシン、サケ・マス類など水産物の水揚げのほか、金属スクラップ、石炭、スラッグなどの水産物以外の貨物を取り扱う。取扱貨物量の拡大に関心があり、敷地内に3.2万トン規模の日本製冷却装置、スケコ・カズノコなどのオークション会場、品質検査施設を備えた多目的施設を建設中で、2021年完成予定。
グリーンイースト(個人事業主)	沿海地方	農業	ロシア極東産の大豆を使用しオーガニック豆腐ブランド「GreenEast」を展開。日本企業との協力経験はないが、豆腐製造技術(特に絹豆腐)を学ぶとともに、今後使用する梱包材、にがり、機材に対する日本からの共同出資者を募集。
JPPV	沿海地方	その他	日本側JBIC、ロシア側極東発展基金および極東投資誘致・輸出促進エージェンシーによる共同出資により、2018年4月設立。ロシア進出を検討している日本企業に対し、ビジネスマッチング、許認可取得、税関手続きなどをサポート。
インプロム	アムール州	農業	栽培面積5,000ヘクタールで大豆年間8,000トン、小麦年間800トンを生産。対中輸出を行っているが、みそ用大豆の対日輸出を前向きに検討しており、パートナーとなる日本企業を探している。フォトセパレーター導入における数量・価格についての協議を希望。
アグロハブ(アムールゼルノ)	ハバロフスク地方	農業	2014年より小麦やソバ、大麦、豆類などの穀物栽培、飼料の生産・販売などに従事。TOR「ハバロフスク」で物流・卸売拠点を整備。

(出所)ロシア極東等農林水産業プラットフォーム事務局提供資料からジェトロ作成